3/18 神戸新聞 朝刊 わがまち面

関西方言の奥深さ学ぶ

西宮 武庫川女子大でセミナー

「けーへん」「こーへん」…多様な表現

方言の奥深さを学ぶセミナー「おもしろいがな関西方言」が17日、西宮市池開町の武庫川女子大であった。日本語文法学会会長の森山卓郎・早稲田大教授が講演。年代や地域によって変化する関西方言のユニークさや、関東方言との違いなどを住民ら約30人に分かりやすく話した。

武庫川女子大言語文化研究所が、大学と地域住民の交流を深めようと開いた。

森山教授は関西人の方言の考え方について「もともと日本の共通語で言葉の中心という自負がある」と指摘。手や歯を「てぇ」や「はぁ」と言ったり、「庭が」「歌が」「雨が」「海が」と話す際のアクセントが異なったりする例を挙げ、「文化の中心だったため古いアクセントが伝統として残りやすい」「母音を大事にする」と特徴を話した。

また、関西方言の多様性も紹介し、「来ない」という言葉も「けーへん」（大阪）「きやん」（奈良）「こーへん」（神戸）と違いがあることを説明。「それぞれの方言にルールや心、思いがあり、地域の文化にもつながっている。伝えられてきた言葉を大事にしてほしい」と話した。

（岡西篤志）

関西方言のユニークさについて話す早稲田大の森山卓郎教授＝西宮市池開町